普及だより
ふじつ
第108号
発行・編集
杵藤農林事務所
藤津農業改良
普及センター
TEL0954-62-5221

シーズン ひと
シリーズ55

『地域の伝統文化とともに うれしの茶の魅力を提案する』

田中宏さん（37歳）

今回は、嬉野地区で茶園8haを経営されている田中宏さんを紹介します。

田中さんは高校卒業後、嬉野町内にある永尾製茶問屋で３年間お茶の修行をされ、２２歳の時に田中製茶工場の３代目として就農されました。就農して間もなくして規模拡大に取り組まれ現在の経営規模に至っています。ここ数年は、有望品種への改植に力を入れ、圃場生産性の向上に励まれています。

規模拡大と良質茶生産に向けた地道な技術研鑽と並行して、平成２８年からは嬉野の茶、温泉、肥前吉田焼の３つの伝統文化を提供する「嬉野茶時プロジェクト」に、平成３０年からは、茶業青年会の有志からなる「グリーンレタープロジェクト」に参画されています。

地域の若手茶農家はもとより、嬉野の旅館や窯業関係者、和菓子関係者などとの連携した活動を通して、様々な切り口からうれしの茶の魅力を消費者に提案し、伝える取組みにも力を入れられています。急須離れが進む中で、土づくりからお茶の提供まで奮闘されています。

現在就農１５年目となります。昨年度から「さが農業経営塾」の受講など、経営や生産性管理のスキルアップに取り組まれており、栽培管理の試行錯誤を重ねながら、より生産性の高い茶園づくりにも尽力されています。令和元年度から青年農業士となり、藤津地区の若きリーダーとして、今後ますますの活躍が期待されます。

受賞おめでとうございます

＜佐賀農業賞＞

先進的農業経営の部　優秀賞　佐賀新聞社賞

鹿島市　山口庄次氏・智美氏

山口氏は、キク専作農家であった親元に就農後、経営を安定させるために周年出荷を目指し、施設の整備や規模拡大をされてきました。圃場が砂質土壌の中山間地に位置するため、条件不利な部分については土壌の改良や日照が特に少ない冬作では炭酸ガス施用等で切り花ボリュームの確保に努められています。また、その優位性を活かすために赤色や黄色の輪ギクに品種転向し、夜間の冷え込みを活かすことで花色の発色が鮮やかになり高い市場評価を得られています。

そんな山口氏ですが、課題について話すとまず出てくるのは地域の過疎化です。とても危機感を持たれており、自らがリーダーとなって地域を守る活動について地域住民に意識醸成されているところです。今後の地域振興での活躍にも期待されます。

若い農業経営者の部　優秀賞

嬉野市　成松一司氏

成松氏は、施設キュウリ農家での１年６か月間の研修を経て、平成２８年に就農されました。経営開始から５年間で「誰でも簡単にできる」生産・収穫体制を構築し、ハウス面積１１ａから４３ａまで規模拡大されています。管理作業の一部と収穫作業を社会福祉事業所に委託するなど、農福連携にも取り組んでいます。異業種との業務提携を可能にしたのも、成松氏の幅広い交流ネットワークが由来しています。地域や県の４Ｈクラブや生産部会だけでなく、武雄青年会議にも参加し、情報収集と人脈づくりに努めています。

今後は障碍者をはじめ雇用者にとって働き甲斐のある職場づくりを目指し、法人化し福利厚生の充実と対外信頼度の向上を図る予定です。今後のさらなる活躍が期待されます。

地域農業活性化の部　優秀賞
佐賀県農業協同組合中央会長賞

嬉野市　吉田まんぞく館

高齢化が進む嬉野市吉田地区で、農業振興と地域活性化を目指して平成１５年に農産物直売所「吉田まんぞく館」を開設。顧客ニーズを常に意識し、年間出荷計画の作成や時期別の出荷品目及び出荷量の調整、「まんぞく弁当」などの総菜やおやき、まんじゅうなどの加工品の充実及び新商品の開発等に積極的に取り組まれ、販売金額を設立当初から２．５倍まで増加させ、農家所得の向上に大きく寄与されています。

「吉田まんぞく館」は吉田地区で生産される農産物の付加価値を高め、農産加工技術の継承する場であるとともに、食と農の情報発信基地として地域活性化に大きな効果をもたらしています。

受賞おめでとうございます

快挙！今年の日本一のバラに認定

日本一のバラを決める品評会「第６３回日本ばら切花品評会」において石川栄治氏・奈津子氏がオリジナル品種「唐紅（からくれない）」で農林水産大臣賞を受賞されました。

石川氏は太良町でオリジナル品種を主体としてバラを栽培されています。育種にあたっては夫婦で試行錯誤しながらよりよい品種の育成に日々取り組まれています。独立就農され６年目、その間に大雨による浸水被害やコロナウイルスの影響を受け、とても厳しい中でしたが、常に対策を考えながら経営をされています。

この受賞をきっかけに各所から大注目されています。今後のさらなる活躍が期待されます。

全国茶品評会でうれしの茶の躍進が続く！！

今年１１月に、お茶の香りや味などを競う全国茶品評会が開催され、嬉野市が釜炒り茶と蒸し製玉緑茶の２部門で、優れたお茶を生産した産地に贈られる「産地賞」を獲得しました。

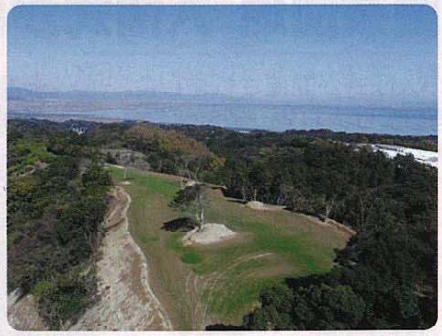
個人では、釜炒り茶部門で出品１０８点のうち山口正美さん（嬉野南部釜炒茶業組合）が最高賞にあたる農林水産大臣賞に輝きました。また、蒸し製玉緑茶の部では、１位を逃したものの出品１０４点のうち２～５位を嬉野が独占しました。新鮮な香りと旨味、お茶の色が高く評価され、茶農家の日々の営農努力が実を結びました。

今年８月には記録的な豪雨で被害を受けた茶園が多くある中で、産地の明るい希望になっています。

鹿島市における放牧事業の取組　企業誘致による周年放牧

近年、藤津管内では農業者の高齢化や後継者不足が顕著となり、特に中山間地域において耕作放棄地の面積が増加しています。

鹿島市では、平成２３年から耕作放棄地の解消を目的として、嘉瀬の浦地区で肉用牛の放牧に取り組まれてきました。耕作放棄地解消の次なる展開として、「トゥルーバファーム佐賀㈱」と令和３年５月に進出協定を締結し、大規模な放牧事業が鹿島市でスタートすることとなりました。



現在、「トゥルーバファーム佐賀㈱」は、地元から従業員を雇用し、古枝・七開地区に広がる耕作放棄地など約１８haの農地を再整備しており、今年度末には２０頭の繁殖雌牛の放牧が始まります。

さが園芸888運動

地域トピックス

茶乃芽&藤津農業女子FJT84マルシェin食べて応援！さがんマルシェを開催！

１１月２７日に、コムボックス佐賀駅前で開催された「食べて応援！さがんマルシェ」に藤津農業女子ＦＪＴ８４がマルシェを出店されました。

今回で３回目となるマルシェでは、若手お茶農家グループ「茶乃芽（ちゃのめ）」メンバーの「うれしの茶ティーバッグ」プレゼントによるお茶のＰＲ活動やメンバーが生産した農産物や加工品などが販売されました。メンバーおそろいのユニフォームとエプロンで一体感も高まり、多くのお客様との交流が活発に行われていました。

4Hクラブ食育活動～みかん狩り体験～

藤津地区４Ｈクラブでは、研修会の開催や経営改善のプロジェクト活動、地域振興の取組などを行っています。その中で、令和３年１１月４日に保育園児をクラブ員のみかん園に招待し、収穫体験を開催しました。

おいしいみかんの選び方やハサミの使い方等の説明の後、収穫体験がスタート。園児たちは広い園地を元気いっぱいに走り回り、みかん収穫や試食を笑顔で楽しみました。農産物は、農家が一つ一つ手作業で収穫してくれていることを肌で感じ、残さず食べることの大切さを学びました。

今年も根域制限栽培でおいしい温州ミカンが収穫できました

藤津地区では、高品質温州ミカンの安定生産を目指し、根域制限栽培の導入が進み、現在８１７ａに拡大しています。昨年度は長雨の影響で、品質が上がらない面があったため、本年はマルチ被覆を半月ほど早くし、初期糖度の確保に努めました。８月の豪雨では品質低下しましたが、ＪＡの指導と農家の細やかな管理により、収穫時には昨年度以上のブランド率となりました。普及センターでは、新規導入者の増加に対応するため、モデル園等を活用しながら、早期の技術修得を支援しています。加えて、大規模生産者に対応する経営面や技術面の支援も行ってきました。今後は、得られた知見をまとめ、パンフレットを作成すると共に、生産者大会等で周知しながら、普及拡大と技術の底上げをめざします。

嬉野市施設園芸団地 入団式が開催

９月１０日に、嬉野市施設園芸団地の入団式が開催されました。園芸団地を整備することで、新規就農者の受け入れや、施設園芸振興の新たな拠点となることが期待されています。

令和４年２月に入植を予定している志岐貴彦さん（嬉野市）は、みどり地区とまとトレーニングファームにて約２年間、栽培技術や経営管理手法を学ばれました。「園芸団地に入植することで、土地の確保とハウスの初期投資の問題が解決できた。今後は、統合環境制御施設を利用して収量３０ｔ／１０ａを目指したい。」と、就農に向け意気込みを語られています。